

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401228		
法人名	株式会社 ホープブライト		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	長崎県南島原市有家町山川337番地		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

当グループホームはご利用者様に対して、まず、第一に清潔感があり、生活しやすい住環境を提供しております。朝礼の中で、「挨拶と掃除、身につけよう整理整頓、社内・外の美化は自分から」というスローガンを全職員で大きな声で斉唱しております。個々の健康管理をはじめ、身体能力や心身の状態に応じて効果的な個人ケアを行い、自己決定を尊重した自立支援に向けた取り組みを行っています。例えば、日常生活動作面において、時間はかかっても、自分でできられることは自分で行っていただいております。一人一人の入居者様に尊厳のある老後を送っていただけるよう支援し「入居者の個性を尊重し、QOL(生活の質)を高めることにより、生きがいを持って明るい生活を送っていただく」ことを理念に掲げ、「その人のペースに合わせてゆくりと」を介護目標とし、すべての入居者様が毎日笑顔で過ごしていただけるよう職員一同、心のこもった介護をさせて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中学校や保育園に隣接し、周囲を畑に囲まれたのどかな地域に立地している。代表者の『掃除と挨拶を徹底する』という信念のもと、ホームの管理者及び職員と共に清潔で居心地の良い空間作りに努めている。ホーム近隣の畑を耕作している農家の方や、保育園の園児、中学生と日頃から挨拶を交わすなど日常的に交流している。職員は入居者の尊厳と生活の質を高め、生きがいを持って笑顔で過ごして頂くことを意識し、過度な支援を行わず入居者の残存機能を活かしながら取り組んでいる。毎月、家族には入居者の状態を評価しグラフ化して手紙と共に知らせており、家族からの信頼に繋がっている。外部研修への参加や、ホーム内でも毎月研修を行い、常に職員の知識やスキルの向上に努めている。入居者や家族、職員からの要望は管理者を通して代表者がすぐに対応するなど、風通しの良い職場環境で職員のやる気にも繋がっており、今後ますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として【入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く】を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関わりを保てるグループホームとして、実践につなげている。	ホームでは毎朝のミーティング時に理念を唱和することで、職員への意識付けを行っている。また、毎月ホームの理念を基にユニット毎に目標を設定し、入居者の生活の質の向上の為、過度な支援にならないよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍で自粛活動要請が出ている。当施設においては、解除後の支援に向けて近隣の保育園や中学校、農作業をされていらっしゃる方々とは、常に笑顔の挨拶をすることで心の交流を行っている。また、いつでも再開の準備に心掛けている。	コロナ禍前は近隣の保育園から餅を頂いたり、夏祭りに参加していた。解除後の支援に向け現在は散歩中の保育園児と会話したり、隣接する畑で作業する農家の方にお茶を出したり、草取りを手伝うなど、コロナ禍でも可能な範囲で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族やご親族、友人の方々と、福祉体験学習の生徒さん達、また、近隣の方々との交流、2ヶ月1回の運営推進会議などにおいて、事業所として、認知症の人の理解や支援方法をわかり易く伝える様にしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月1回実施し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員、御家族代表から積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通してサービスの向上に活かしている。	運営推進会議で入居者の状況やホームの取り組みを報告する中で、参加者から意見を伺うようにしているが、意見の申し出は少ない。議事録を広報誌と併せて運営推進会議録を手渡し、遠方の家族には郵送し運営の透明化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。	市の担当者が運営推進会議に参加しており、ホームの現状を伝え、情報交換を行うほか、法改正などの制度上の変更時にはその都度確認し、連携を図っている。市やグループホーム連絡協議会が主催する研修会にも積極的に参加し協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルが定めてあり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会や随時ミーティング等で職員に周知を行い、職員全員が正しく理解している。運営推進会議においても議題に挙げている。	ホーム独自で身体拘束に関する内部研修会を2カ月に1回開催している。拘束をされる側の気持ちになって考え体験してみるなど実践的な研修を行うことで身体拘束の廃止と職員のスキルアップに繋げている。入居者への声掛けについて気になった時には職員が互いに注意しあえる関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での高齢者虐待防止研修の中で虐待防止の観点から、職員間で互いに虐待が起きる理由をディスカッションしている。また、利用者側の気持ちを考えることで、職業倫理の自己啓発と虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員に周知徹底を行っている。利用者一人ひとりの人権尊重と多様性の時代であることを伝えるとともに、利用者主体のケアの重要性を意識した支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図り、契約を締結している。また、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、また、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。	毎月、担当者が入居者個々のアセスメントシートを作成し、家族へ本人の状況を伝え、その際に家族からも意見を聴取している。雨天時、車の乗降の際に雨で濡れるのが心配という家族の意見に対しカーポートを設置するなど、家族意見にその都度対応を講じており、家族との信頼関係に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1日2回の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。また、根拠や背景に何があるのかを相互が理解し認め合うことで、風通しの良い職場環境の改善にもつなげている。	管理者は朝夕のミーティング時や、職員から個人的に意見を聞いて対応している。室内が暗いという職員の意見から電灯をLEDに変更するなど、代表者や管理者が職員意見を汲み取り運営に反映することで職員のモチベーションの向上にも繋がっている。また、職員の資格取得にも勤務シフトを配慮するなどバックアップ体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代など職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。また、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上につとめている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人様とご家族に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様、家族の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人尊重を第一に考え、先人の知恵や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えていただいたり、食後のお盆、食器ふきや洗濯物たたみなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽を共にし、支えあえる関係をもてるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事などをご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族の思い、関係を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所への外出、交流機会の減少は否めない。ただし、回想法やご利用者様に寄り添い共感的に傾聴することで、生きる喜びや楽しみ、生きがいづくりにつなげている。	コロナ禍において、外出や地域交流を自粛する中で、昔話や歌を唄うといった回想法を用いたり、電話で知人や家族と直接話をしてもらうなど工夫している。今後はテレビ電話などを用いて自宅や馴染みの場所、友人との関係性を継続できる方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、一人ひとりの気持ちを汲み取りながら利用者間の関係向上の為、食事の席替え、レクリエーションへの呼びかけ、ドライブへの声かけなど、利用者様同士が関わり合い、支えあえる様に支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問、電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めに応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。	入居契約時に、本人、家族へ暮らし方の意向を聴取している。入居後も普段の会話や毎月のアセスメントを通して本人の意向の把握に努めている。把握した情報は申し送りや職員会議で共有し、職員全員が入居者の思いに沿ったケアを実践できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人またはご家族から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソード、入所までの経過等を個人別にバックグラウンドとして記録し把握している。しかし最近では本人の生い立ちを知らない家族も多く見受けられ、困難な場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を個人別ケア一覧表に記録。また、排泄記録、1日2回のミーティング、日常記録(特変時の状況記録)等により現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族に報告している。毎月のケア会議では、モニタリングを兼ねて開催している。また、現状の振り返りの中で、今後、どうしていくことが望ましいのかを皆で考え、それらを次の支援に反映させている。	担当職員が作成したアセスメントシートを基に、職員会議を通じて全職員でモニタリングを行い、職員の気づきや意見をケアプランに反映している。経過記録にケアプランを綴じ、日々の実践や記録時にもケアプラン内容が確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ケア会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的にはかかりつけ医の病院や専門医と連携を取り、本人や家族の状況に答えている。また、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校や保育園等、地元地域の特性を把握し、また、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	主治医は入居者や家族の意向を踏まえて、入居前のかかりつけ医の継続とホームの協力医を選択できる体制を整えている。病院への受診時は職員が同行しているが、家族が同行することも可能である。入居者の健康状態に変化があった場合や定期受診以外の受診時には家族へ報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、連携看護師と相談をしながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療を出来るよう、また、早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを備え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。	ホームは協力医と連携を図り、看取りを行える体制を整えている。看取りに関する指針とマニュアルを作成し、職員へ周知すると共に、緊急時対応の研修会を開催することで、適切な対応と職員の精神的負担の軽減に努めている。令和4年2月にターミナルケア研修会の開催を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。市の消防署が行う救急救命の研修に参加したり、また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練の中に昼夜を問わず、あらゆる災害を想定した消防避難訓練を行政、消防署、地元消防団の協力のもと行い、利用者、全職員が避難訓練に共に参加している。また緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。	年2回の避難訓練を実施している。地震等を想定した災害訓練を行うことで職員の防災意識を高めている。災害時の業務継続計画の策定にも取り組んでおり、ホームでの研修会や運営推進会議で報告し、職員のほか地域住へ民の防災意識の定着と向上に努めている。	緊急時持ち出し用ファイルを準備されているが、入居者の介護保険情報がなく、また、服薬情報は別ファイルとなっていた。緊急時に持ち出しやすいよう持ち出す物を最小限にすると共に入居者情報を確認できるようファイルの内容を検討するなど、避難先でも円滑な治療や介護サービスに繋がる工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声かけを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。また広報誌も毎月発行し家族のみに送付している。	職員の申し送りや情報伝達の際に、周囲に入居者がいる時には入居者の名前を言わず、場所を変えるなど個人情報に配慮している。居室への入室時にはノックし確認してから入室することを全職員が心掛けている。職員は馴染みのある方言を使用して声掛けしているが、決してなれなれしい言葉にならないよう留意している。	入居者の個人情報の使用に関して、重要事項説明書等で説明し家族より同意を得ているが、広報誌等への写真掲載についての記載が確認できない。口頭で家族へ説明しているとの事であったが、入居者写真の使用については、書面で残し確認できるよう対応することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声かけや話し合いを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごすなど、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいお洒落を楽しまれている。また、定期的に施設にプロの理容院さんに訪問してもらい髪を切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好にあわせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変更したり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。また、お盆拭きなど簡単な後片付けを一緒に行っている。	食事は職員が調理し、手作りの料理が食卓に並んでいる。野菜の皮むきや、洗った後の食器拭きなど、入居者ができる事は職員が見守りながら一緒に行っている。朝の起床が遅い入居者には朝食の時間をずらすなど、入居者それぞれの生活のリズムに合わせて対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考ながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。また、一人一人の状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態にあわせ全介助、一部介助、見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、外出後、イソジンガーグル液での口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの力や排泄パターンにあわせた支援、無理強いのない声かけや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表をもとに、入居者個々人のパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。ホームは入居者の排泄動作もリハビリの一環と捉えており、入院や体調不良などで一時的にオムツを着用していても、状態に合わせてリハビリパンツを着用し、トイレでの排泄を促すように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因について説明を行っている。また、毎朝のラジオ体操や立ち上がりなどのリハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声かけ、支援を行い、入浴を楽しめるようにしている。また、本人様の体調に合わせ、清拭や足浴などを行っている。	週2回の入浴を基本としているが、入居者が希望した場合は入浴回数を増やして対応している。入居者の希望や皮膚疾患の有無などを考慮して、入浴の順番を決めている。リラクゼーション効果を高める工夫や、安楽に過ごすために車イスの方も浴槽に入れるよう介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や心身の状況、生活習慣に合わせ、居室で休まれるなど、自由に休息をさせている。また、就寝も一人ひとりの生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、分からないときは個人別のファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになっている。また、一人ひとりの氏名を呼んで、その方の顔を確認し服用間違いがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、お盆拭き、洗濯物たみなどの役割、読書が好きの方は読書、複数で歌を唄ったり、好きなDVD鑑賞などの楽しみ事など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍における不要不休の外出自粛要請が出ていたこともあって、これまでご利用者様にとって、十分な支援には至っていない。受診などで代替支援に変えさせている。	近隣の畑作業の手伝いや、専門医療機関の受診時等にドライブをして気分転嫁に繋げている。駐車場でレクリエーションを行ったり、おやつを食べるなど、コロナ禍でもホーム内に閉じこもらないよう工夫している。近隣に保育園や中学校があり、入居者は散歩時に子供達との挨拶や会話を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている。職員も利用者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。また外出時の買い物など、その方の好みに合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。また携帯電話を本人に持たせている家族もある。手紙については、やりとりできるようお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、行事ごとの飾り付けを行ったり季節ごとの花を生け、季節を感じて頂けるよう工夫をしている。また、室温や換気などの空調管理やブラインドの調整などを行い、居心地よく過ごして頂けるように支援している。	ホーム共有空間の壁面には入居者と職員が一緒に作成した季節の飾り付けが施され、現在はクリスマスツリーと家族から頂いた花を飾っている。清掃は一週間のスケジュールを決め、職員が交代で行っており、清潔が保たれ、居心地の良い空間を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で同じテーブルでの会話や工作をされる為の場所の設定、テレビを見るために椅子をテレビ前に置いたりなど自由に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様またはご家族に持ち込みの制限のないこととお話し、使い慣れたタンスや鉢植え、子供の家族や孫の写真を持ち込まれ本人様が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室は毎日モップ掛けを行っている。居室にあるベッドとポータブルトイレ以外は全て入居者の持ち込み品である。入居者本人が使い慣れた家具を持ち込み、身体機能を考慮して配置することで、安全に居心地良く過ごせる居室となるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車いすで自由に行き来でき廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。また、居室の扉に大きく名前を張るなど配慮を行い、自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として【入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く】を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通して地域の一員としてその人らしく、関わりを保てるグループホームとして、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍で自粛活動要請が出ている。当施設においては、解除後の支援に向けて近隣の保育園や中学校、農作業をさせていらっしゃる方々とは、常に笑顔の挨拶をすることで心の交流を行っている。また、いつでも再開の準備に心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族やご親族、友人の方々や、福祉体験学習の生徒さん達、また、近隣の方々との交流、2ヶ月1回の運営推進会議などにおいて、事業所として、認知症の人の理解や支援方法をわかり易く伝える様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月1回実施し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員、御家族代表から積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通してサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての独自の身体拘束防止マニュアルが定めてあり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会や随時ミーティング等で職員に周知を行い、職員全員が正しく理解している。運営推進会議においても議題に挙げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での高齢者虐待防止研修の中で虐待防止の観点から、職員間で互いに虐待が起きる理由をディスカッションしている。また、利用者側の気持ちを考えることで、職業倫理の自己啓発と虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員に周知徹底を行っている。利用者一人ひとりの人権尊重と多様性の時代であることを伝えるとともに、利用者主体のケアの重要性を意識した支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図り、契約を締結している。また、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回のケア会議における個々のアセスメントの家族への説明の中で、意見や要望をお伺いし、また、ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の窓口の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1日2回の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へつなげ運営に反映させている。また、根拠や背景に何があるのかを相互が理解し認め合うことで、風通しの良い職場環境の改善にもつなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会などへの参加状況の把握に努め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代など職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。また、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し同業者同士のネットワーク作りや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上につとめている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時、本人様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、ご家族に面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人様とご家族に面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、「その時」必要とされている支援を見極め援助、本人様、家族の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人尊重を第一に考え、先人の知恵や料理のおいしい食べ方、草木の名前や育て方などを教えていただいたり、食後のお盆、食器ふきや洗濯物たたみなど一緒に行い、職員も利用者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽を共にし、支えあえる関係をもてるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事などをご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活をされていても、本人様とご家族の思い、関係を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所への外出、交流機会の減少は否めない。ただし、回想法やご利用者様に寄り添い共感的に傾聴することで、生きる喜びや楽しみ、生きがいづくりにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、一人ひとりの気持ちを汲み取りながら利用者間の関係向上の為、食事の席替え、レクリエーションへの呼びかけ、ドライブへの声かけなど、利用者様同士が関わり合い、支えあえる様に支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や自宅への訪問、電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めに応じている。困難な場合は、ご家族の方と相談しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人またはご家族から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴やエピソード、入所までの経過等を個人別にバックグラウンドとして記録し把握している。しかし最近では本人の生い立ちを知らない家族も多く見受けられ、困難な場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を個人別ケア一覧表に記録。また、排泄記録、1日2回のミーティング、日常記録(特変時の状況記録)等により現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族に報告している。毎月のケア会議では、モニタリングを兼ねて開催している。また、現状の振り返りの中で、今後、どうしていくことが望ましいのかを皆で考え、それらを次の支援に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ケア会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的にはかかりつけ医の病院や専門医と連携を取り、本人や家族の状況に答えている。また、日々のミーティング、月1回のケア会議において、利用者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校や保育園等、地元地域の特性を把握し、また、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し利用者様一人ひとりにとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は、本人及び家族等の希望に応じて主治医及び、入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、連携看護師と相談をしながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に利用者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際、安心して治療を出来るよう、また、早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを備え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方について本人様・ご家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。市の消防署が行う救急救命の研修に参加したり、また看護師や医療機関との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練の中に昼夜を問わず、あらゆる災害を想定した消防避難訓練を行政、消防署、地元消防団の協力のもと行い、利用者、全職員が避難訓練に共に参加している。また緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声かけを行うことに努めている。また時には方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。また広報誌も毎月発行し家族のみに送付している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの性格の理解に努め、本人が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声かけや話し合いを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごすなど、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ちいただき、外出場所に合わせ、その人らしいお洒落を楽しまれている。また、定期的に施設にプロの理容院さんに訪問してもらい髪を切っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好にあわせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変更したり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。また、お盆拭きなど簡単な後片付けを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考ながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。また、一人一人の状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態にあわせ全介助、一部介助、見守りなど本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行っている。また、外出後、イソジンガーグル液での口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの力や排泄パターンにあわせた支援、無理強いのない声かけや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には、個人に便秘の原因について説明を行っている。また、毎朝のラジオ体操や立ち上がりなどのリハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声かけ、支援を行い、入浴を楽しめるようにしている。また、本人様の体調に合わせて、清拭や足浴などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や心身の状況、生活習慣に合わせ、居室で休まれるなど、自由に休息をされている。また、就寝も一人ひとりの生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、分からないときは個人別のファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになっている。また、一人ひとりの氏名を呼んで、その方の顔を確認し服用間違いがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、お盆拭き、洗濯物たたみなどの役割、読書が好きの方は読書、複数で歌を唄ったり、好きなDVD鑑賞などの楽しみ事など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍における不要不休の外出自粛要請が出たこともあって、これまでご利用者様にとって、十分な支援には至っていない。受診などで代替支援に変えさせている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている、職員も利用者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。また外出時の買い物など、その方の好みに合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。また携帯電話を本人に持たせている家族もある。手紙については、やりとりできるようお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、行事ごとの飾り付けを行ったり季節ごとの花を生け、季節を感じて頂けるよう工夫をしている。また、室温や換気などの空調管理やブラインドの調整などを行い、居心地よく過ごして頂けるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で同じテーブルでの会話や作業をされる為の場所の設定、テレビを見るために椅子をテレビ前に置いたりなど自由に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様またはご家族に持ち込みの制限のないこととお話し、使い慣れたタンスや鉢植え、子供の家族や孫の写真を持ち込まれ本人様が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車いすで自由に行き来でき廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。また、居室の扉に大きく名前を張るなど配慮を行い、自立した生活が送れるよう支援している。		